

2022年度決算概要
2023年度業績予想
および「中期経営計画2023」進捗

2023/2/13



住友重機械工業株式会社

社長 下村 真司

INDEX

01

2022年決算概要

02

2023年度業績予想

03

「中期経営計画2023」進捗

04

サステナビリティへの取り組み

01

2022年度決算概要

01 2022年度決算期変更について（2022年5月発表再掲）

【2022年度業績について】

当期（2022年12月期）より、決算期（事業年度の末日）を12月31日に変更。
 移行期となる当期は、住友重機械工業および国内子会社（以後「国内」）について、**2022年度は9カ月**となる。

	2021年度	2022年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	2023年度
国内	2021年4月～2022年3月	2022年4月～2022年12月 (9カ月)	4月～6月 (3カ月)	7月～9月	10月～12月	2023年1月～2023年12月
海外	2021年1月～2021年12月	2022年1月～2022年12月 (12カ月)	1月～6月 (6カ月)			

	2022年				2023年
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
国内		1Q	2Q	3Q	
		2022年度上期		2022年度下期	
	2022年度 国内 9カ月				
海外	1Q	2Q	3Q		
		2022年度上期		2022年度下期	
	2022年度 海外 12カ月				

01

2022年度 決算概要

<p style="text-align: center;">2022年度 実績</p>	<p>受注高 : 9,847億円</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>売上高 : 8,541億円</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>営業利益 : 448億円 / 親会社株主純利益 : 58億円</p>
<p style="text-align: center;">前年同期比</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受注高 : 機械需要は堅調で、すべてのセグメントで増加。 ・ 売上高 : 部品調達難による生産制約は残るものの市況は概ね堅調で、エネルギー&ライフラインを除き増加。 ・ 営業利益 : 原材料や調達品の価格上昇、欧州でエネルギープラントのプロジェクト採算悪化などあり減少。 ・ 親会社株主純利益 : 特別損失計上により大幅減少。
<p style="text-align: center;">2022年11月 時点予想比</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受注高 : 機械需要は堅調で、インダストリアル マシナリーを除き増加。 ・ 売上高 : 部品調達難による生産制約などにより、エネルギー&ライフラインを除き減少。 ・ 営業利益 : 売上は減少したものの、機種構成の変化などにより増加。 ・ 親会社株主純利益 : 特別損失計上により大幅減少。

01

2022年度 決算概要

	国内	海外
*1	2021年/2022年4月～12月の9カ月	2021年/2022年1月～12月の12カ月
*2	2021年4月～2022年3月の12カ月	2021年1月～12月の12カ月

以降全て同様

単位：億円	2021年度 *1 実績	2022年度 *1		増減	
		直近予想(22年11月)	実績	前期比	直近予想(22年11月)比
受注高	8,952	9,700	9,847	896	147
売上高	7,798	8,700	8,541	743	△159
営業利益	506	430	448	△58	18
営業利益率	6.5%	4.9%	5.2%	-	-
経常利益	493	440	433	△61	△7
経常利益率	6.3%	5.1%	5.1%	-	-
特別損益	△4	△20	△255	△251	△235
親会社株主純利益	324	260	58	△266	△202
親会社株主利益率	4.2%	3.0%	0.7%	-	-
1株当たり配当	*2 115円	90円	90円	△25円	0円
配当性向	*2 32.0%	42.4%	190.8%	-	-
ROIC (税引後)	*2 7.3%	5.8%	*3 6.2%	-	-
【参考】ROE	*2 8.5%	6.0%	*3 3.0%	-	-
為替レート(ドル)	*2 ¥112	¥145	¥133	-	-

*3 12カ月換算ベース

01

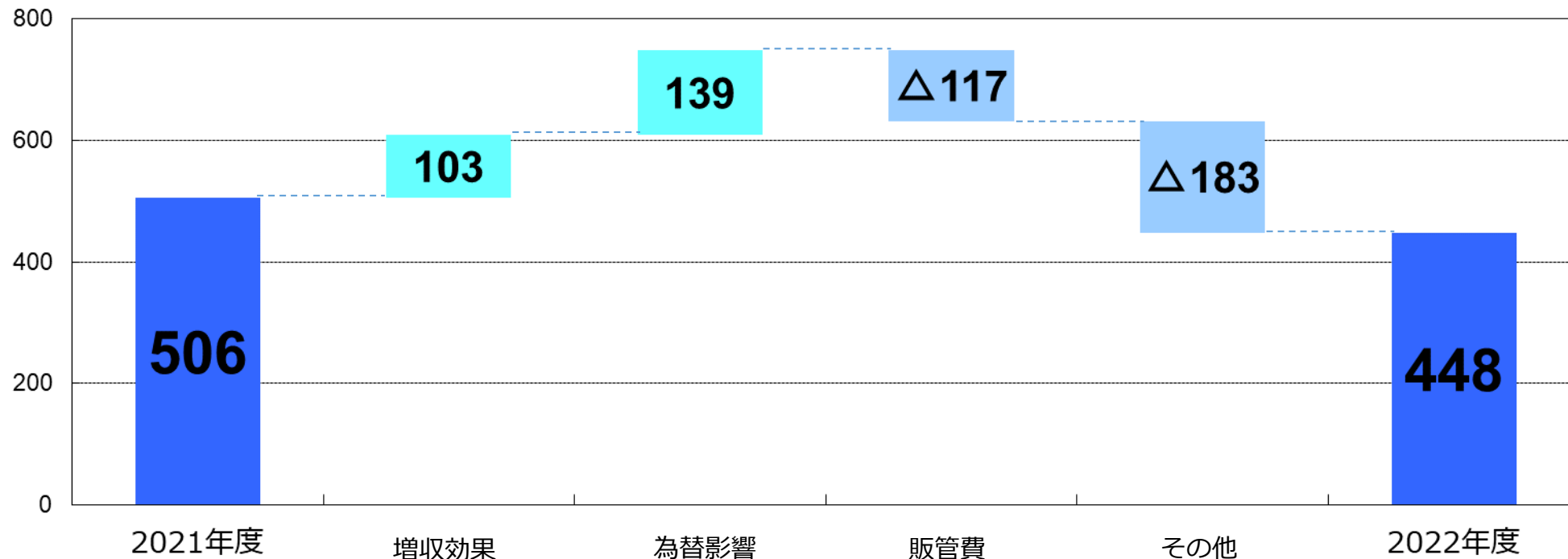
2022年度 セグメント別業績

単位：億円	受注高			売上高			営業利益				
	2021年度 *1 実績	2022年度 *1 実績	増減	2021年度 *1 実績	2022年度 *1 実績	増減	2021年度 *1 実績 /営業利益率(%)		2022年度 *1 実績 /営業利益率(%)		増減
メカトロニクス	1,780	2,041	261	1,445	1,814	369	67	4.6	95	5.2	28
(プラスチック加工機械)	1,043	976	△66	964	972	8					
(その他)	1,234	1,690	456	948	1,277	329					
インダストリアル マシナリー	2,276	2,667	390	1,913	2,249	337	142	7.4	213	9.5	71
(油圧ショベル)	2,160	2,180	20	1,773	1,780	7					
(その他)	1,222	1,362	139	1,072	1,223	151					
ロジスティクス & コンストラクション	3,382	3,541	159	2,845	3,003	158	158	5.5	130	4.3	△28
エネルギー&ライフライン	1,465	1,552	87	1,550	1,433	△117	124	8.0	△5	△0.3	△129
その他	47	46	△1	45	41	△4	16	-	15	-	△1
合計	8,952	9,847	896	7,798	8,541	743	506	6.5	448	5.2	△58

01

2022年度 営業利益増減分析

単位：億円



<増収効果 セグメント別内訳>

単位：億円

メカトロニクス	61
インダストリアル マシナリー	84
ロジスティクス&コンストラクション	△9
エネルギー&ライフライン	△33

<販管費>

- ・売上増に伴う販売運送費や人件費および貸倒引当が増加

<その他>

- ・原材料、調達品価格上昇影響 △230億円
- ・価格転嫁による改善 +155億円
- ・エネルギープラントの売上減や個別プロジェクト採算悪化 △89億円 など

01

2022年度 特別損失の計上について

費目	損失の内容	損失金額	買収/ 出資時期	買収/ 出資額	本社所在地	セグメント
減損損失	1.SFW社に係るのれんを含む 固定資産	177億円	2017年6月	228億円	オランダ	エネルギー& ライフライン
	2.LMS社に係るのれんを含む 固定資産	30億円	2020年5月	32億円	ドイツ	インダストリアル マシナリー
	3.事業用資産等	5億円				
投資有価証券 評価損	4.ハイビュー社に係る出資額	52億円	2020年2月	52億円	イギリス	エネルギー& ライフライン
合計		264億円				

1. SFW社 : Sumitomo SHI FW Energie B.V.
2. LMS社 : Leifeld Metal Spinning GmbH
4. ハイビュー社 : Highview Enterprises Limited

01

連結貸借対照表（資産の部）

単位：億円	2022/3末	2022/12末	増減
流動資産	6,481	7,114	633
現預金	888	975	87
売上債権	2,948	3,003	55
棚卸資産	2,321	2,755	434
その他	324	381	57
固定資産	4,468	4,375	△93
有形固定資産	3,010	3,201	191
無形固定資産	776	566	△209
投資その他の資産	683	608	△75
資産合計	10,949	11,489	539

■ 総資産

受注増に伴う棚卸資産増の影響が大きい。

■ 売上債権

売上の増加に伴い増加。

■ 棚卸資産

受注増に伴い、全セグメントで増加。
部品供給遅れや生産能力不足によるリードタイム長期化の影響あり。

■ 有形固定資産

積極的な設備投資により増加。

■ 無形固定資産

のれんの減損に伴い減少。

01

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

単位：億円	2022/3末	2022/12末	増減
負債	5,281	5,719	439
買掛債務	1,726	1,863	137
有利子負債	1,113	1,608	495
その他	2,442	2,249	△193
純資産	5,668	5,769	101
株主資本	4,789	4,685	△104
その他の包括利益累計額	725	1,008	283
非支配株主持分	155	77	△78
負債・純資産合計	10,949	11,489	539
ネット有利子負債比率	2.1%	5.5%	3.5%
自己資本比率	50.4%	49.5%	△0.8%

■買掛債務

売上の増加に伴い増加。

■有利子負債

現預金控除後の純有利子負債は408億円の増加。

■純資産

株主資本のうち、利益剰余金が95億円減少。
その他の包括利益累計額のうち、
為替換算調整勘定が円安に伴い269億円増加。

単位：億円

区 分	2022年度
営業活動	214
税金等調整前当期純利益	178
減価償却費	296
運転資本	△149
その他（税金等）	△111
投資活動	△373
（フリーキャッシュ・フロー）	△159
財務活動	217
現金・現金同等物増減	87
現金・現金同等物期末残高	937

■ 営業キャッシュ・フロー

売上債権は減少したものの棚卸資産が増加。

■ 投資キャッシュ・フロー

高水準の投資を継続。

■ キャッシュ・フロー 指標トレンド

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
フリー キャッシュ・ フロー（億円）	333	2	△215	204	120	△159
債務償還年数 （年）*1	0.9	1.3	3.4	1.9	1.8	7.5
インタレスト・ カバレッジ・ レシオ（倍）*2	72.5	51.2	30.5	66.2	81.8	20.0

*1 有利子負債÷営業キャッシュ・フロー

*2 営業キャッシュフロー÷利払い

02

2023年度業績予想

<p style="text-align: center;">2023年度 予想</p>	<p>受注高 : 10,800億円</p> <hr/> <p>売上高 : 10,500億円</p> <hr/> <p>営業利益 : 640億円 / 親会社株主純利益 : 380億円</p>
<p style="text-align: center;">前年同期比</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受注高 : 市況は堅調の想定も、前期増加の反動により全セグメントで減少。 ・ 売上高 : 調達難による生産制約が残るものの、量産系を中心に受注残が多くエネルギー&ライフラインを除き増加。 ・ 営業利益 : 売上は増加するものの、円高や一部の機種で原材料や調達品の価格上昇の影響も残り改善は限定的。
<p style="text-align: center;">トピック・ 市況認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市況は概ね堅調の想定も、先行き不透明感あり。また、地域別にバラつき。 ■ 調達価格上昇に対しては価格転嫁を図り、一定レベルの採算改善。 ■ サプライチェーンの混乱は、油圧ショベルなど一部の機種で引き続き影響が残る。 ■ 地政学リスク・過度な為替相場の変動・感染症影響などのリスクについてはアジリティな対応が必要。

02

2023年度 業績予想

	国内	海外
*1	2021年/2022年4月～12月の9カ月	2021年/2022年1月～12月の12カ月
*2	2022年/2023年1月～2022年/2023年12月の12カ月	2022年/2023年1月～12月の12カ月
*3	2021年4月～2022年3月の12カ月	2021年1月～12月の12カ月

以降全て同様

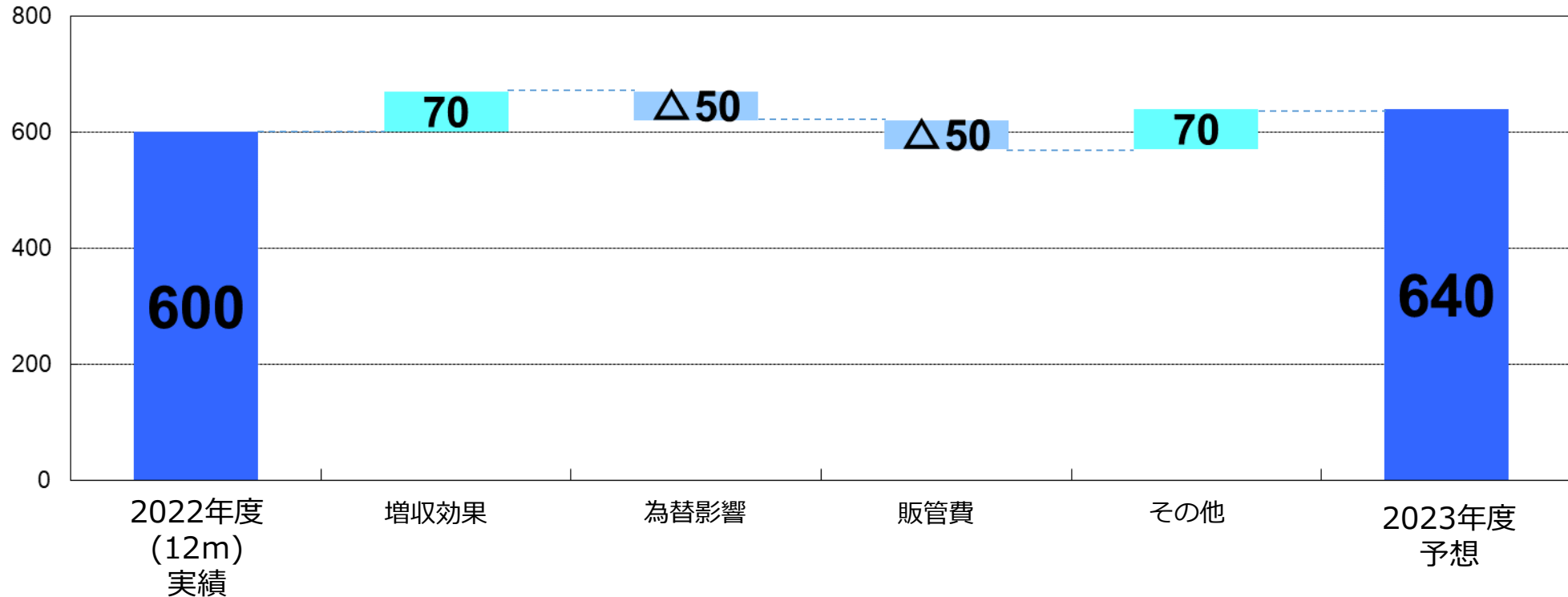
単位：億円	2021年度 *1 実績 (2021.4-2021.12)	2022年度 *1 実績 (2022.4-2022.12)	(参考) 2022年度 *2 実績 (2022.1-2022.12)	2023年度 *2 予想 (2023.1-2023.12)
受注高	8,952	9,847	11,648	10,800
売上高	7,798	8,541	10,183	10,500
営業利益	506	448	600	640
営業利益率	6.5%	5.2%	5.9%	6.1%
経常利益	493	433	588	600
経常利益率	6.3%	5.1%	5.8%	5.7%
特別損益	△4	△255	△276	△20
親会社株主純利益	324	58	163	380
親会社株主利益率	4.2%	0.7%	1.6%	3.6%
1株当たり配当	*3 115円	90円	-	120円
配当性向	*3 32.0%	190.8%	-	38.7%
ROIC(税引後)	*3 7.3%	*4 6.2%	-	6.1%
【参考】ROE	*3 8.5%	*4 3.0%	-	6.5%
為替レート(ドル)	*3 ¥112	¥133	-	¥125

*4 12カ月換算ベース

02

2022年度／2023年度 営業利益増減分析

単位：億円



<増収効果 セグメント別内訳>

単位：億円

メカトロニクス	10
インダストリアル マシナリー	40
ロジスティクス&コンストラクション	10
エネルギー&ライフライン	10

<その他>

原材料、調達品価格上昇影響と
価格転嫁による改善の差額 +30億円 など

02

2023年度 セグメント別業績予想

	受注高			売上高			営業利益						
	2022年度 *1 実績 (22.4-22.12)	(参考) 2022年度 *2 実績 (22.1-22.12)	2023年度 *2 予想 (23.1-23.12)	2022年度 *1 実績 (22.4-22.12)	(参考) 2022年度 *2 実績 (22.1-22.12)	2023年度 *2 予想 (23.1-23.12)	2022年度 *1 実績 (22.4-22.12) /営業利益率(%)		(参考)2022年度 *2 実績 (22.1-22.12) /営業利益率(%)		2023年度 *2 予想 (23.1-23.12) /営業利益率(%)		
単位：億円													
メカトロニクス	2,041	2,206	2,200	1,814	1,979	2,150	95	5.2	92	4.6	95	4.4	
(プラスチック加工機械)	976	1,071	1,090	972	1,065	1,100							
(その他)	1,690	2,210	1,970	1,277	1,578	1,830							
インダストリアル マシナリー	2,667	3,281	3,060	2,249	2,643	2,930	213	9.5	265	10.0	295	10.1	
(油圧シヨベル)	2,180	2,558	2,170	1,780	2,114	2,300							
(その他)	1,362	1,602	1,460	1,223	1,458	1,370							
ロジスティクス & コンストラクション	3,541	4,160	3,630	3,003	3,572	3,670	130	4.3	166	4.6	165	4.5	
エネルギー&ライフライン	1,552	1,942	1,820	1,433	1,934	1,720	△5	△0.3	56	2.9	80	4.6	
その他	46	60	90	41	56	30	15	-	21	-	5	-	
合計	9,847	11,648	10,800	8,541	10,183	10,500	448	5.2	600	5.9	640	6.1	

02

メカトロニクス

22年度^{*1}：国内や欧米で中小型の変減速機やロボット用精密減速機、インバータの需要が堅調で、受注、売上、営業利益ともに増加。営業利益は、売上の増加により増益。

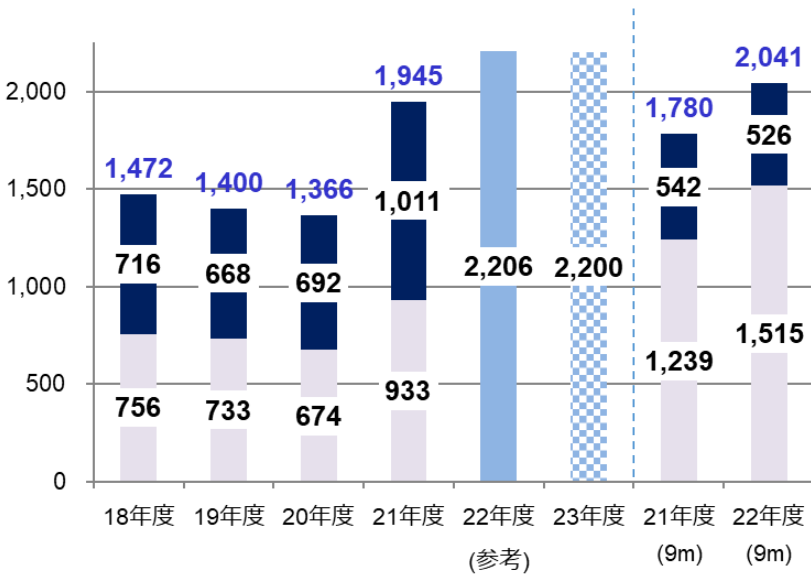
23年度^{*2}：市況は概ね堅調の想定で、受注は前期並み。受注残があり売上が増加。営業利益は前期並み。

単位：億円	2021年度 *1 実績 (21.4-21.12)	2022年度 *1 (22.4-22.12)				(参考) 2022年度 *2 実績 (22.1-22.12)	2023年度 *2 (23.1-23.12)	
		22年11月 予想	実績	前期比 増減	22年11月 予想比増減		予想	前期比
受注高	1,780	2,030	2,041	261	11	2,206	2,200	△5
売上高	1,445	1,860	1,814	369	△46	1,979	2,150	171
営業利益	67	70	95	28	25	92	95	3
営業利益率 (%)	4.6	3.8	5.2	0.6	1.4	4.6	4.4	△0.2
受注残高	806		1,077	271				

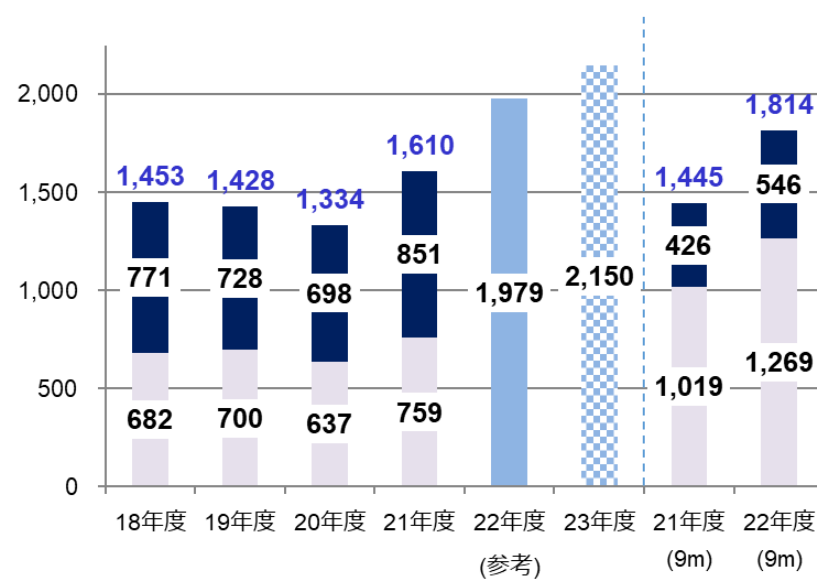
02

メカトロニクス

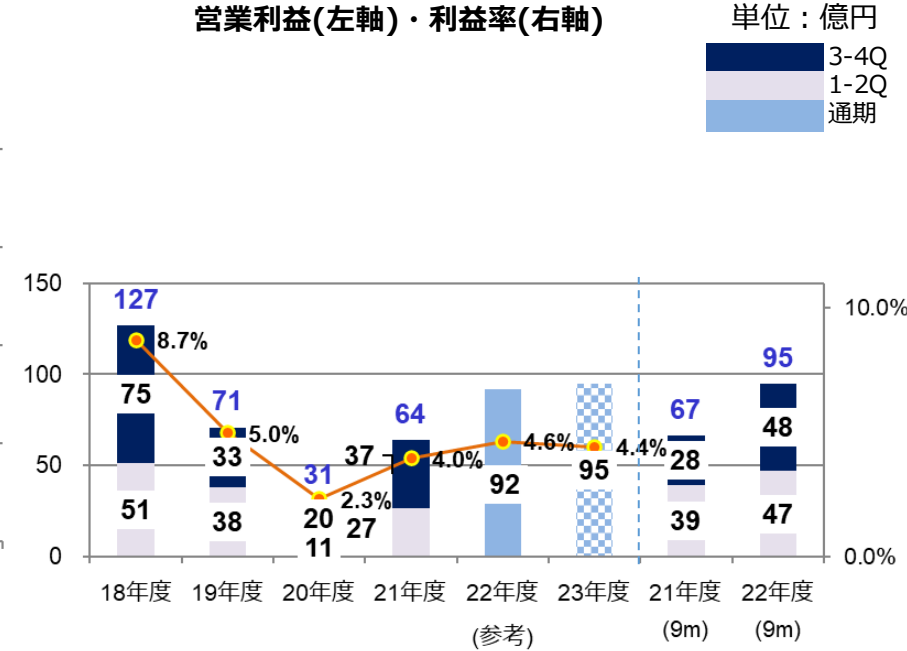
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



<参考>

・変減速機事業 機種別売上構成 (概数)

	ギヤモータ (中型)	ギヤボックス (大型)	精密用途 (MCD)	サービス	電機制御	合計
2022年度 *1	40%	20%	10%	10%	20%	100%
2021年度	40%	20%	10%	10%	20%	100%

02 インダストリアル マシナリー

<プラスチック加工機械>

22年度*1：前期好調であった中国や欧州の需要が落ち着き受注は減少も、受注残があり売上は前期並み。
原材料や調達品の価格上昇などにより営業利益は減少。

23年度*2：日本やアジアは堅調の想定で受注は前期並み。売上は受注残があり増加。営業利益は資材費高騰などあるが、前期並み。

<その他>

22年度*1：半導体関連の需要の増加や医療機械器具の受注が増加し、受注、売上、営業利益ともに増加。

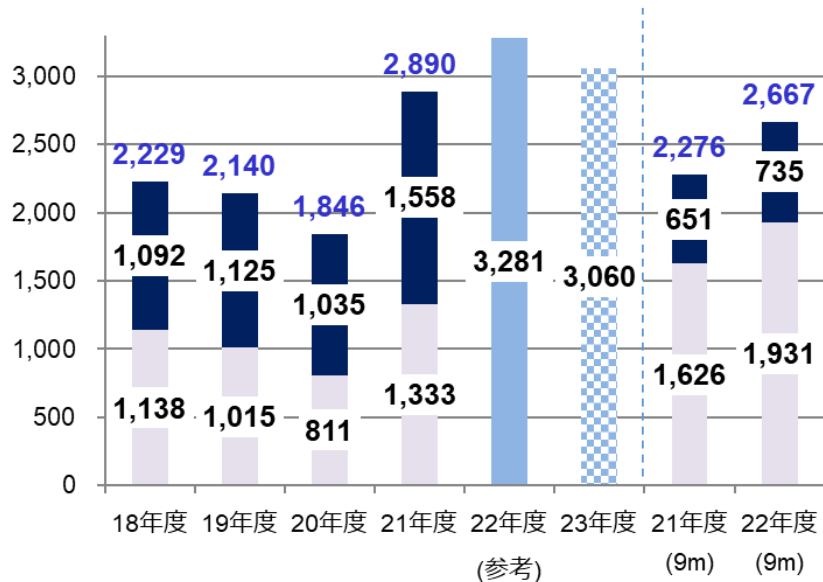
23年度*2：半導体関連は客先からの先行発注で前期が増加した反動により受注は減少。売上、営業利益は受注残があり増加。

単位：億円	2021年度 *1 実績 (21.4-21.12)	2022年度 *1 (22.4-22.12)				(参考) 2022年度 *2 実績 (22.1-22.12)	2023年度 *2 (23.1-23.12)	
		22年11月 予想	実績	前期比 増減	22年11月 予想比増減		予想	前期比
プラスチック加工機械	1,043	960	976	△66	16	1,071	1,090	19
その他	1,234	1,720	1,690	456	△30	2,210	1,970	△240
受注高	2,276	2,680	2,667	390	△13	3,281	3,060	△221
プラスチック加工機械	964	970	972	8	2	1,065	1,100	35
その他	948	1,290	1,277	329	△13	1,578	1,830	252
売上高	1,913	2,260	2,249	337	△11	2,643	2,930	287
営業利益	142	160	213	71	53	265	295	30
営業利益率 (%)	7.4	7.1	9.5	2.1	2.4	10.0	10.1	0.1
受注残高	1,220		1,905	684				

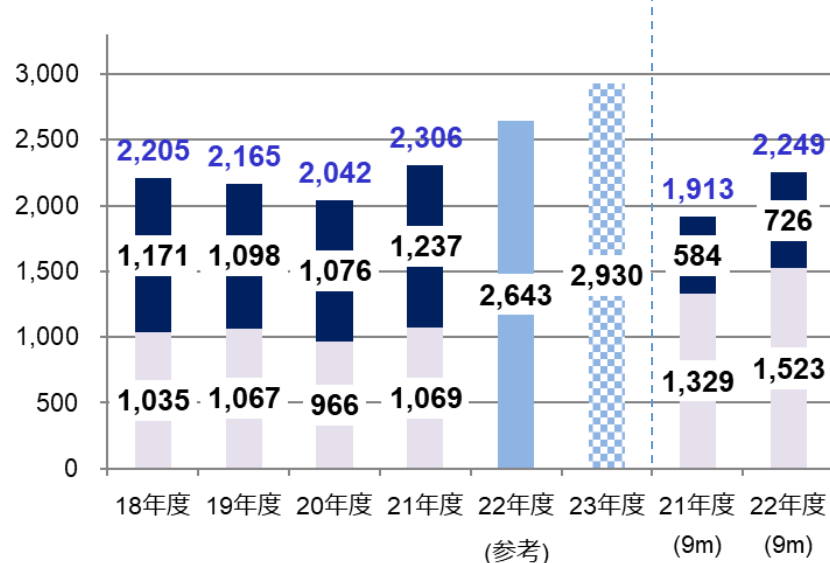
02

インダストリアル マシナリー

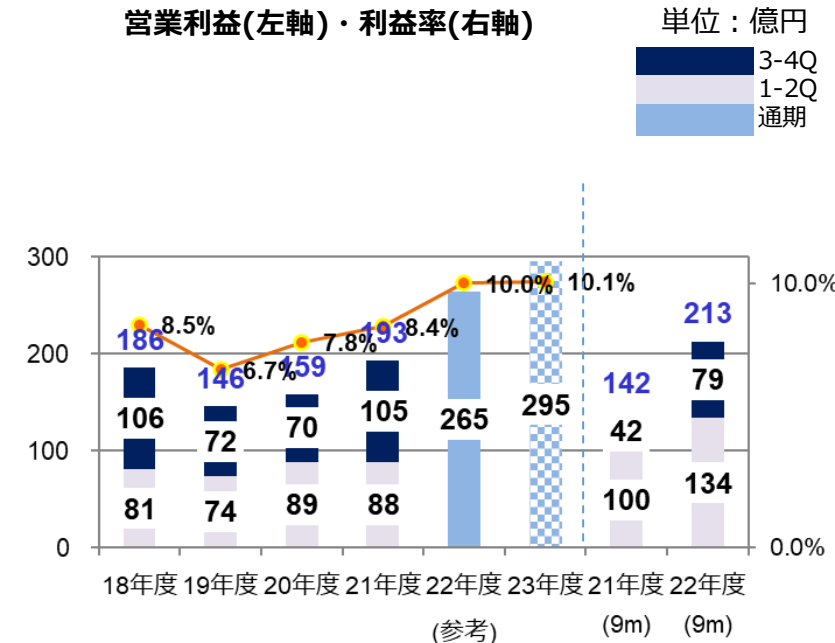
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



<参考>

・射出成形機 売上業種別構成 (概数)

	電気・電子 関連	自動車	医療・食品 容器・雑貨	その他	合計
2022年度 *1	20%	15%	50%	15%	100%
2021年度	25%	15%	45%	15%	100%

・半導体製造装置 (イオン注入装置) 事業業績 (概数)

単位: 億円	2021年度 *1 実績	2022年度		2023年度 予想
		実績 *1 (22.4-22.12)	実績 *2 (22.1-22.12)	
受注	380	430	660	510
売上	240	380	500	510

02 ロジスティクス&コンストラクション

<油圧ショベル>

22年度*1：中国市場の需要が景気減速やロックダウンで大きく減少したものの、国内や北米は堅調であったことから受注、売上は増加。
中国市場の売上減少や売上債権に対する引当金の計上などにより営業利益は減少。

23年度*2：国内や北米は底堅いが中国は回復せず受注は減少。円高や価格転嫁の遅れはあるが、売上増加により営業利益も増加。

<その他>

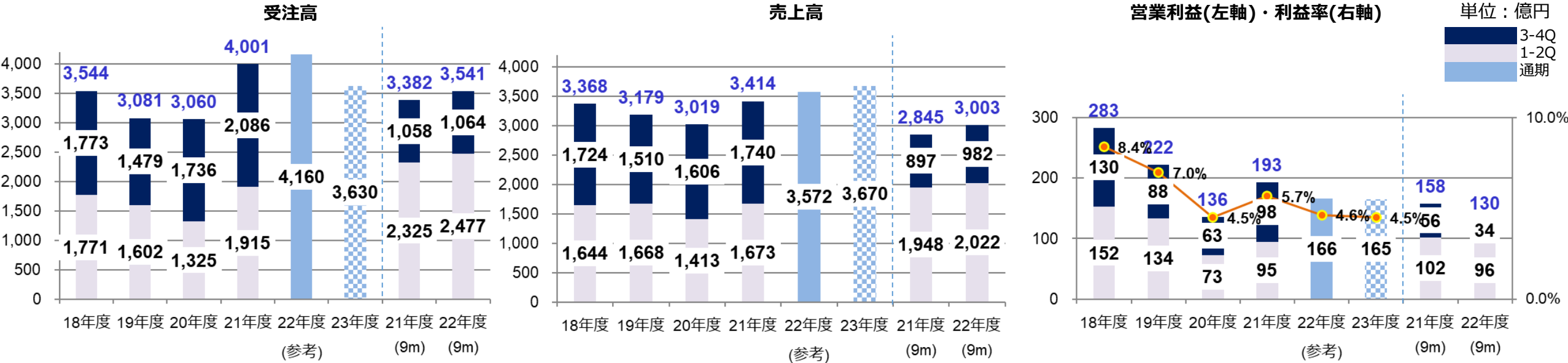
22年度*1：建設用クレーンは、北米地区の需要が堅調に推移したことなどから、受注、売上、営業利益ともに増加。

産業用クレーンは、港湾・電力向け需要が堅調に推移したことなどから受注、売上、営業利益ともに増加。

23年度*2：前期の反動などで受注は減少。売上も減少することに加え、機種構成・資材費高騰や為替の影響により営業利益も減少。

単位：億円	2021年度 *1 実績 (21.4-21.12)	2022年度 *1 (22.4-22.12)				(参考) 2022年度 *2 実績 (22.1-22.12)	2023年度 *2 (23.1-23.12)	
		22年11月 予想	実績	前期比 増減	22年11月 予想比増減		予想	前期比
油圧ショベル	2,160	2,280	2,180	20	△100	2,558	2,170	△387
その他	1,222	1,170	1,362	139	192	1,602	1,460	△143
受注高	3,382	3,450	3,541	159	91	4,160	3,630	△530
油圧ショベル	1,773	1,930	1,780	7	△150	2,114	2,300	187
その他	1,072	1,160	1,223	151	63	1,458	1,370	△89
売上高	2,845	3,090	3,003	158	△87	3,572	3,670	98
営業利益	158	150	130	△28	△20	166	165	△1
営業利益率 (%)	5.5	4.9	4.3	△1.2	△0.5	4.6	4.5	△0.1
受注残高	1,806		2,476	670				

02 ロジスティクス&コンストラクション



<参考>

・油圧ショベル 地域別需要/売上高推移 (概数)

※外資のみ

単位：万台(上段)/億円(下段)		北米	欧州	アジア (除く中国)	中国※	日本	その他	合計
2023年度	需要	4.1	3.8	2.6	1.8	2.8	-	
2022年度	需要*2	4.2	4.3	2.6	2.2	2.6	-	
	売上高*1	533	139	304	134	543	127	1,780
2021年度	需要*2	4.0	4.8	2.4	4.9	2.7	-	
	売上高*1	416	123	242	318	561	111	1,773

・産業用クレーン 業種別受注構成 (概数)

	電力	鉄鋼	造船	港湾	その他	合計
2022年度*1	20%	30%	30%	10%	10%	100%
2021年度	40%	25%	15%	10%	10%	100%

・建設用クレーン事業 (国内) 業績 (概数)

単位：億円	2021年度*1 実績	2022年度		2023年度 予想
		実績*1 (22.4-22.12)	実績*2 (22.1-22.12)	
受注	300	300	360	390
売上	210	240	340	410

02

エネルギー&ライフライン

22年度*1：エネルギープラント事業は、バイオマス発電設備の大型案件が前期に比べ減少したことなどから受注、売上は減少。加えて欧州で大型プロジェクトの採算悪化があったことから営業利益は大きく減少。その他の事業は、受注、売上、営業利益ともに増加。

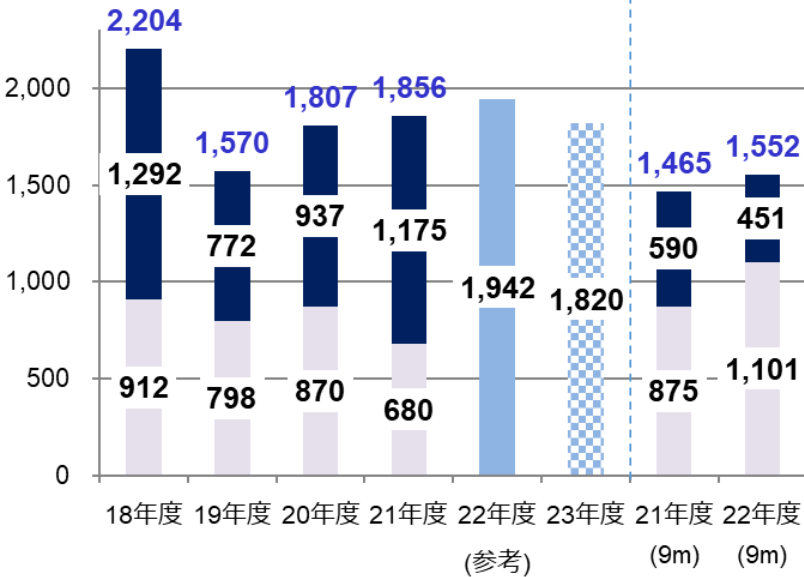
23年度*2：エネルギープラント事業は、バイオマス発電設備の大型案件が前期に比べ増加することから受注は増加。一方、受注残が減少することから売上は減少も、営業利益は増益。その他の事業は、大型案件の減少により受注は減少。売上も減少するが営業利益は改善。

単位：億円	2021年度 *1 実績 (21.4-21.12)	2022年度 *1 (22.4-22.12)				(参考) 2022年度 *2 実績 (22.1-22.12)	2023年度 *2 (23.1-23.12)	
		22年11月 予想	実績	前期比 増減	22年11月 予想比増減		予想	前期比
受注高	1,465	1,480	1,552	87	72	1,942	1,820	△123
売上高	1,550	1,430	1,433	△117	3	1,934	1,720	△213
営業利益	124	10	△5	△129	△15	56	80	24
営業利益率 (%)	8.0	0.7	△0.3	△8.3	△1.0	2.9	4.6	1.7
受注残高	2,672		2,582	△90				

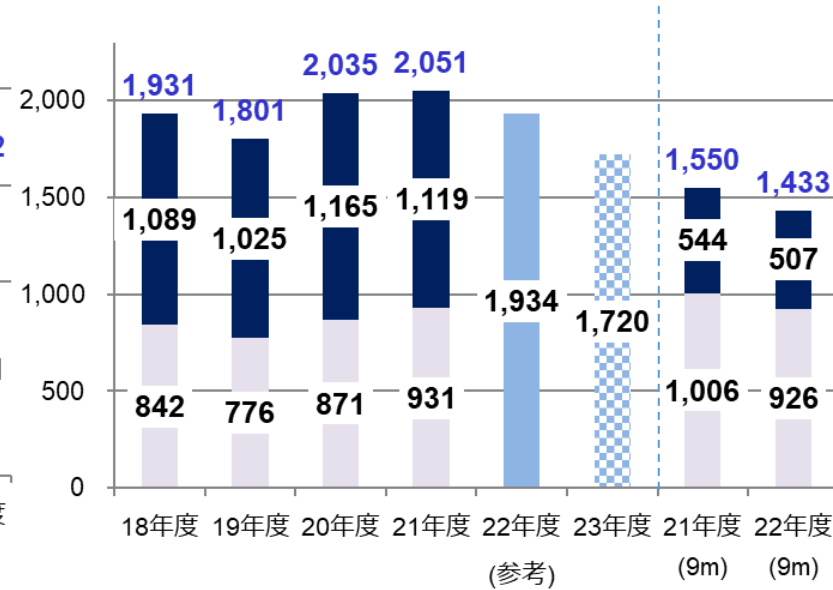
02

エネルギー&ライフライン

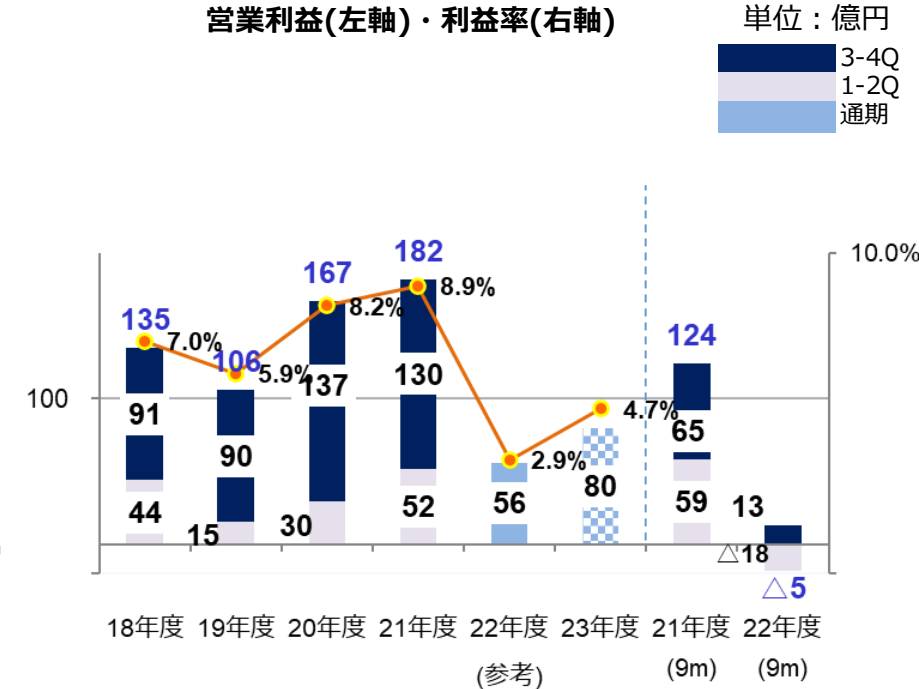
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



<参考>

・エネルギープラント事業 主要受注案件

顧客	建設場所	運転開始予定時期	ボイラ形式
東ソー株式会社	山口県周南市	2026年	74MW級CFB *1
Jämtkraft AB	スウェーデン	2025年	25MW級BFB *2

*1 CFB：循環流動層

*2 BFB：バブリング流動床

03

「中期経営計画2023」進捗

03

「中期経営計画2023」：事業環境の変化

外部環境の織込み

事業への影響

事業課題

対応

中計23編成時織込み

- ・ ESGの急速な進展
- ・ 経済、安全保障での中国の影響力増
- ・ 情報価値の拡大・DX進展
- ・ Covid-19の長期化
- ・ 外生的なリスクの拡大、実体化



2022年度のトピックス

- ・ COP27（カーボンプライシング促進）
- ・ 中国経済回復不透明
（ゼロコロナ政策転換影響と台湾有事リスク）
- ・ ロシアのウクライナ侵攻長期化
- ・ Withコロナ社会の浸透
- ・ 金融市場の急激な変動
（為替変動、金利政策変更）
- ・ 深刻な人手不足

世界経済の
ブロック化
中国リスク

物価上昇・S/C混乱
景気後退懸念
賃上げの動き

注力領域・
地域見極め
「選択と集中」

製造コスト上昇
と部品確保

資本コスト
の上昇

持続的な
成長

- ・ 競争優位
- ・ 社会価値の
マネタイズ
- ・ ポートフォリオ
の見直し

業績織込み
価格転嫁
S/C対策実行

BS効率化
サービス事業拡大

「環境・エネルギー」
「DX・自動化」の
商品開発促進による
新商品展開

新セグメントの
シナジー実現
「選択と集中」

03

「中期経営計画2023」：基本方針の展開状況

基本方針	具体的展開
1. 強靱な事業体の構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成長分野への積極的な設備投資並びに研究開発の実施 ■ アフターサービス事業の伸長 ■ BCPによるサプライチェーン対策の実施
2. 企業価値向上のための変革	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1兆円超（12か月ベース）の受注・売上を達成 ■ 半導体関連製品や電機制御系機種^①の伸長
3. 働きやすい会社への変革	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェンダーダイバーシティの推進 ■ リモート勤務体制の推進により、Covid-19下において安定的に事業活動を展開 ■ 人権方針の策定
4. 製品・サービスによるSDGsへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「環境・エネルギー」「自動化・デジタライゼーション」の開発推進と新製品上市^②
5. 事業を通じた環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ■ TCFD賛同 ■ 2030年CO2削減目標設定 ■ 2050年カーボンニュートラル実現に向けた長期目標設定

03 「中期経営計画2023」：2-①：新セグメントのシナジー実現について

セグメントの正式組織化

今中期経営計画開始時に公表セグメントの見直しを実施し、23年1月にセグメントを正式組織化。

セグメントを事業の括りとしてだけでなく、大きな事業体として運営することで、新規事業への探索とシナジー追求を加速させる。

長期戦略会議の開催

セグメントの目指す方向性や成長戦略は、取締役とセグメント長で構成される長期戦略会議で定期的に議論し、下記取り組みを実施。

<取り組み例>

- ・成長が見込まれる半導体分野への重点投資（イオン注入装置の新工場新設）
- ・電機制御系事業での欧州買収会社とのコラボレーション

新事業探索室の設置

各セグメントでの新事業開発と並行して、新しい領域の事業探索やセグメント間の横断的な事業開発に機動的に取り組む本社組織として新事業探索室を設置。

03

「中期経営計画2023」：4…② 開発の重点領域

重点領域	開発のターゲット	2022年度実績
環境	持続可能な産業に必要な環境保全技術開発 (排水・廃棄物処理技術)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高濃度油脂分解速度を大幅に向上した新嫌気処理技術、燃料電池の原理による脱硫と発電技術の開発。 ■ プラスチックの環境問題対応では、ケミカルリサイクルによる高品質製品に再生可能な重合工程の検討。
エネルギー	脱炭素社会に向けた未来技術開発 (二酸化炭素・廃熱利用技術、プラント故障診断／運転支援技術)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 焼却灰や藻類を用いたCO2固定化に加え、燃料合成技術開発を開始。高温蓄熱での廃熱利用技術開発を推進。 ■ ガス化技術の活用推進、エネルギー貯蔵システム実証プラント建設決定、CO2回収・利用技術の事業化検討
自動化	移動体やロボット商品の 知能化・高度化、生産技術革新に 向けた開発推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建設機械の運転支援、遠隔・自動化や電動化に関する技術開発を推進、適用試験を実施。 ■ センシング、情報処理技術を用いて、建設機械、物流搬送機械の自動化領域を拡大。
デジタルイノベーション	知能化技術・情報基盤技術を磨き上げ、 各種知能を製品・サービスに実装	<ul style="list-style-type: none"> ■ センサフュージョンを用いた建設機械の周辺監視システムを試作、適用試験を実施継続。 ■ 建設機械の故障診断技術は、試験運用を経て次フェーズの検討を開始。 ■ 産業機械の条件設定支援・自動化技術開発を推進。

03 「中期経営計画2023」：4…② エネルギー貯蔵システム

日本国内初となるLAES商用実証開始

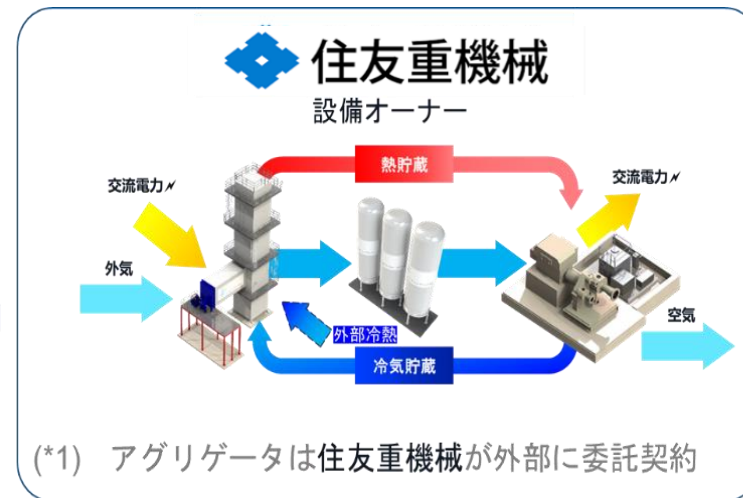
- ・ 広島ガス株式会社とパートナーを組み、液化空気エネルギー貯蔵（Liquid Air Energy Storage、以下「LAES」*1、2）の商用実証プラントを建設し、実証運転を開始（2025年3月設備完工）。
- ・ 今後需要の見込まれる蓄電市場を追求し、資源の有効活用と環境負荷の低減に貢献するエネルギー貯蔵設備を提供することで、電力とユーティリティの安定供給と脱炭素社会の実現に貢献。

1. 商用実証の目的

- ①設計・建設における法令・規格対応
- ②日本の系統運営や電力需給市場対応と合理化
- ③LNG冷熱など未利用冷熱の相互利用による効率改善・省エネ効果検証

容量市場
需給調整市場
卸電力市場

市場取引
(*1)



このまち思いエネルギー。
HIROGAS 広島ガス

パートナー
(LNG冷熱相互供給)



LNG冷熱
利用

2. 設備概要（LAESシステム：クライオバッテリー）

- ①容量：4.99MW x 4時間貯蔵（充電4MW）
- ②建設予定地：広島県廿日市市

*1. 2020年2月にエネルギー貯蔵技術の取得を目的に当社が出資した英国ハイビューエンタープライズリミテッド社（Highview Enterprises Limited）が先導する技術

*2. LAESシステムは、3つのプロセスから構成。1) 充電：オフピーク時電力、余剰電力を利用し空気液化設備を作動させ液体空気を生成。2) エネルギー貯蔵：液体空気は低圧断熱されたタンクに貯蔵。3) 放電：発生した高圧ガスがタービンと発電機を稼働し、電力を生成。

03

「中期経営計画2023」：財務目標

■ 財務目標

単位：億円	2021年度 実績	2022年度 実績 (9カ月)	2022年度 実績 (12カ月)	2023年度 目標 (21年5月時点)	2023年度 目標 (22年5月時点)	2023年度 予想 (23年2月時点)
受注高	10,753	9,847	11,648	10,000	10,700	10,800
売上高	9,440	8,541	10,183	9,700	10,500	10,500
営業利益	657	448	600	700	760	640
営業利益率	7.0%	5.2%	5.9%	7.2%	7.2%	6.1%
ROIC	7.3%	6.2%	-	7.5%	7.5%	6.1%
為替レート(ドル)	¥112	¥133	-	¥100	¥120	¥125
【参考】ROE	8.5%	3.0%	-	8.0%	8.0%	6.5%

- 受注高
堅調な受注環境により計画を
を過達見込。
- 売上高
受注を反映し過達。
- 営業利益
想定以上のコストアップにより
計画を下方修正。
- ROIC
営業利益の修正を反映し、
目標値を6.1%に修正。

■ 投資計画

単位：億円	設備投資	研究開発費	M&A・新規事業
2021年度実績	322	218	0
2022年度(9カ月)実績	365	174	73
2023年度予想*	563	268	-
3カ年累計 (22年5月時点→23年2月時点)	1,170→1,250	680→660	400

*決定ベース

- 設備投資
主力事業および情報化投資に重点
を置き、積極投資を継続。
- 研究開発費
成長に向けた商品力強化。
- M&A・新規事業
成長案件発掘のために
機会があれば実施。

03

「中期経営計画2023」：セグメント別目標値

	受注高		売上高		営業利益				
	2023年度 目標 (22年5月時点)	2023年度 予想 (23年2月時点)	2023年度 目標 (22年5月時点)	2023年度 予想 (23年2月時点)	2023年度 目標 (22年5月時点) /営業利益率(%)	2023年度 予想 (23年2月時点) /営業利益率(%)			
単位：億円									
メカトロニクス	1,960	2,200	1,980	2,150	120	6.1	95	4.4	欧州を中心とした電機制御分野の拡大とグループ内のコラボレーションが進展。
(プラスチック加工機械)	1,100	1,090	1,100	1,100					半導体製造装置の新工場完成で増産体制が整い、事業が拡大。次世代の核医学医療機器の開発が完了し、初号機を受注。
(その他)	1,770	1,970	1,730	1,830					
インダストリアル マシナリー	2,870	3,060	2,830	2,930	305	10.8	295	10.1	
(油圧ショベル)	2,420	2,170	2,440	2,300					ショベル、クレーンの電動化・自動化開発でシナジーを展開。自動倉庫、自動フォークリフトでは、事業ユニットを跨いだコラボレーションが実現。
(その他)	1,290	1,460	1,350	1,370					
ロジスティクス & コンストラクション	3,710	3,630	3,790	3,670	230	6.1	165	4.5	
エネルギー& ライフライン	2,110	1,820	1,840	1,720	90	4.9	80	4.6	脱炭素で機種ポートフォリオを見直す中で、エネルギー貯蔵システムなど新しい領域でのソリューション提供を展開。
その他	50	90	60	30	15	-	5	-	
合計	10,700	10,800	10,500	10,500	760	7.2	640	6.1	

04

サステナビリティへの取り組み

04

サステナビリティ推進への取組み

	2022年度 実績	課題
全体	<ul style="list-style-type: none"> ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に選定（非財務情報開示拡充） ポジティブ・インパクト・ファイナンス(融資)実施 EcoVadisシルバー*取得(前年はブロンズ) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会価値向上に向けたCSVの推進 サステナビリティ重要課題の対応強化 開示情報発信量、質の改善
環境 (E)	<ul style="list-style-type: none"> 2030年CO2排出量削減目標ならびに、2050年カーボンニュートラル目標の設定 再生可能エネルギーの調達開始 グループ会社がCO2削減で省エネ大賞受賞 	<ul style="list-style-type: none"> リスク、機会評価と対策立案 CO2削減目標、カーボンニュートラル達成に向けた施策の進捗フォロー
社会 (S)	<ul style="list-style-type: none"> 人権方針策定、技能実習生の労働環境調査実施 LGBT対応強化(同性パートナーシップ・トランスジェンダー向け環境整備) 働き方改革の加速（副業等） 	<ul style="list-style-type: none"> 調達先との連携強化 サプライチェーンの人権問題対応 従業員のウェルビーイングの実現
ガバナンス (G)	<ul style="list-style-type: none"> 女性取締役候補擁立 セグメント組織実体運営開始 役員への株式報酬制度の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役によるガバナンスの更なる向上 ジェンダーダイバーシティの拡大

*EcoVadis：世界最大級の企業のサステナビリティ格付けプロバイダー。

世界160か国、約100,000社のサプライヤー企業を対象に環境、労働と人権、倫理、持続可能な調達の4側面で企業の持続可能性を評価。

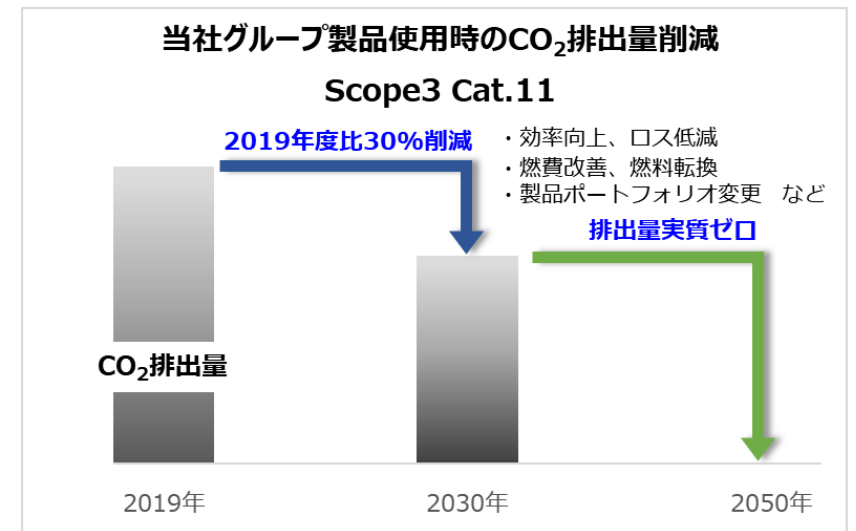
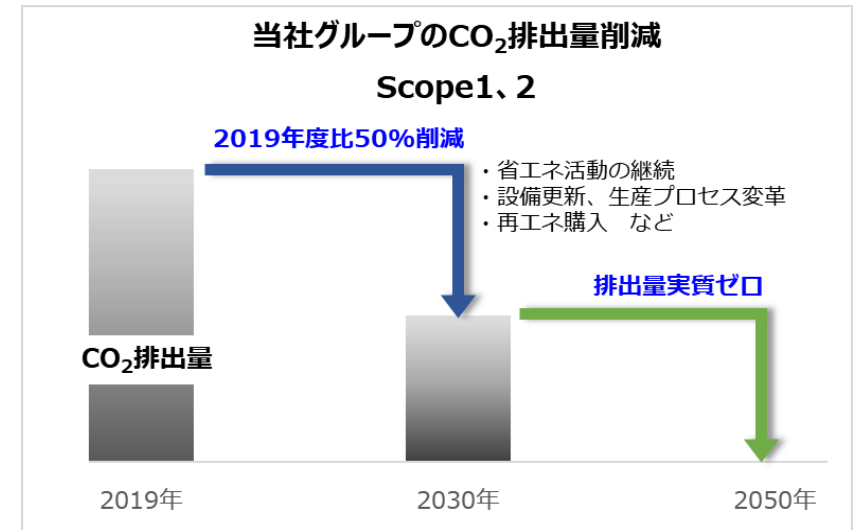
「シルバーメダル」は受審企業内上位25%のスコア取得基準を満たした企業に授与される。当社グループは一般機械製造業界内で上位10%以内に入るスコアを獲得。

04 <E（環境）：気候変動対応>

- Scope1、2の削減
 - ・再生可能エネルギーの調達開始
 - ・インターナルカーボンプライシングの設定と運用開始
 - ・生産活動におけるCO2削減の加速
(グループ会社が2022年度省エネ大賞受賞)
- Scope3の削減
 - ・製品使用時CO2削減に向けた新商品提供
(液化空気エネルギー貯蔵システム等)
- 全体
 - ・CDP*¹2022にて前年度B-からBフラットに改善
 - ・GXリーグ*²への賛同

*1 世界の企業や都市が開示した、気候変動対応の戦略や温室効果ガス（GHG）排出量削減の取り組みなどを評価するESG評価機関。

*2 GX（グリーントランスフォーメーション）の略。2050年カーボンニュートラルの実現と社会変革を見据えてGXへの挑戦を行い、経済産業省によるGXリーグ基本構想を通して同様の取組を行う企業群や官・学と共に協働する取組み。



04

<S（社会）：人権方針の策定、LGBT対応、働き方改革>

■ 人権方針の策定

- 目的：グローバルな人権意識の高まりを受け、従業員だけでなくサプライチェーン全体の人権への責任を宣言すること。
- 2月13日に取締役会にて決議。
- 昨年から人権デュー・ディリジェンス*試行開始。方針策定を経て着実な実行へ。

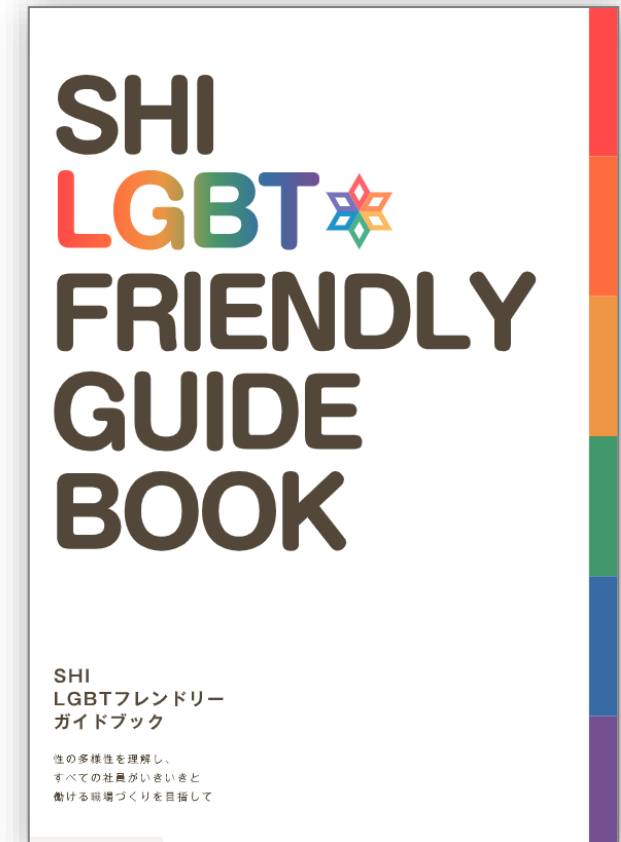
*企業活動がステークホルダーの人権に及ぼす負の影響を特定・予防・軽減・是正し、情報開示すること

■ LGBT対応

- 役員勉強会の実施。
- LGBTフレンドリーガイドブック（右図）の発行による従業員の理解促進。
- LGBTアライ（支援者）の呼びかけ。
- 同性パートナーシップの届出による社内制度適用開始。

■ 働き方改革の加速

- 副業の解禁。
（本業以外の活動を通じたスキルアップ、自律的なキャリア形成等への対応）



04

<G（ガバナンス）：取締役会の実効性評価結果を踏まえて>

ガバナンスのさらなる充実に向けて

課題① 取締役会の構成、在り方

- 23年3月の株主総会で女性取締役1名を選任予定。
引き続き取締役会のダイバーシティの充実、機関設計変更の要否を含めたガバナンス体制の検討を進める。

課題② 経営資源配分、事業ポートフォリオ戦略

- 長期的な当社経営の在り方、戦略を踏まえた、事業ポートフォリオ最適構成の議論を、次期中期経営計画策定の中で深化・加速。

課題③ 資本コストを意識した審議の充実

- 中期経営計画および長期戦略について、事業部門毎の最適なKPIに基づき、ROIC目標をいかに達成するかの計画と戦略を更に具体化し、取締役会での議論充実。

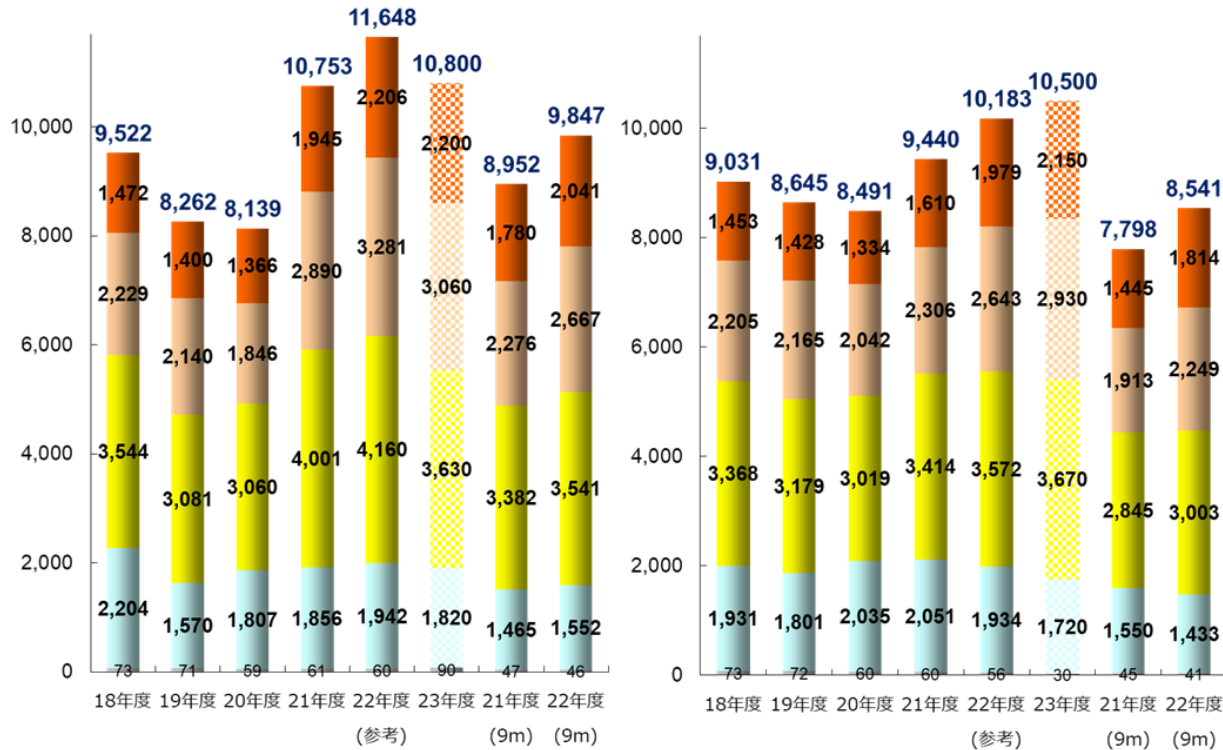
参考資料

■ 受注／売上／営業利益 推移 単位：億円

受注高

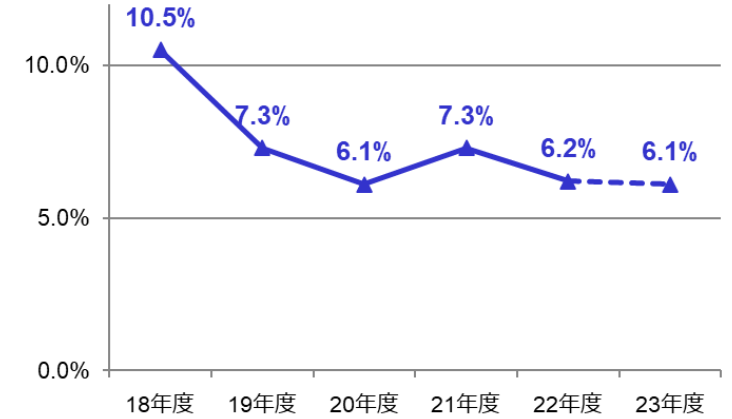
売上高

営業利益

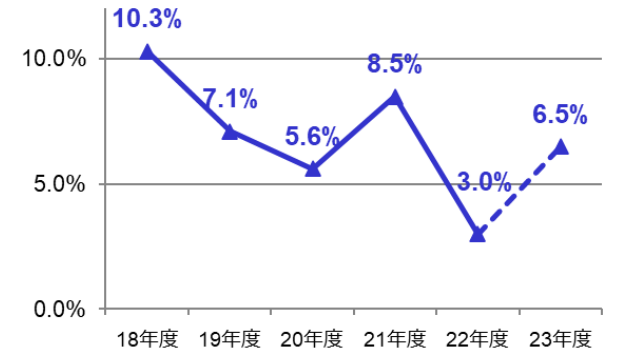


- メカトロニクス
- インダストリアル マシナリー
- ロジスティクス&コンストラクション
- エネルギー&ライフライン
- その他

■ ROIC 推移



(参考) ROE 推移





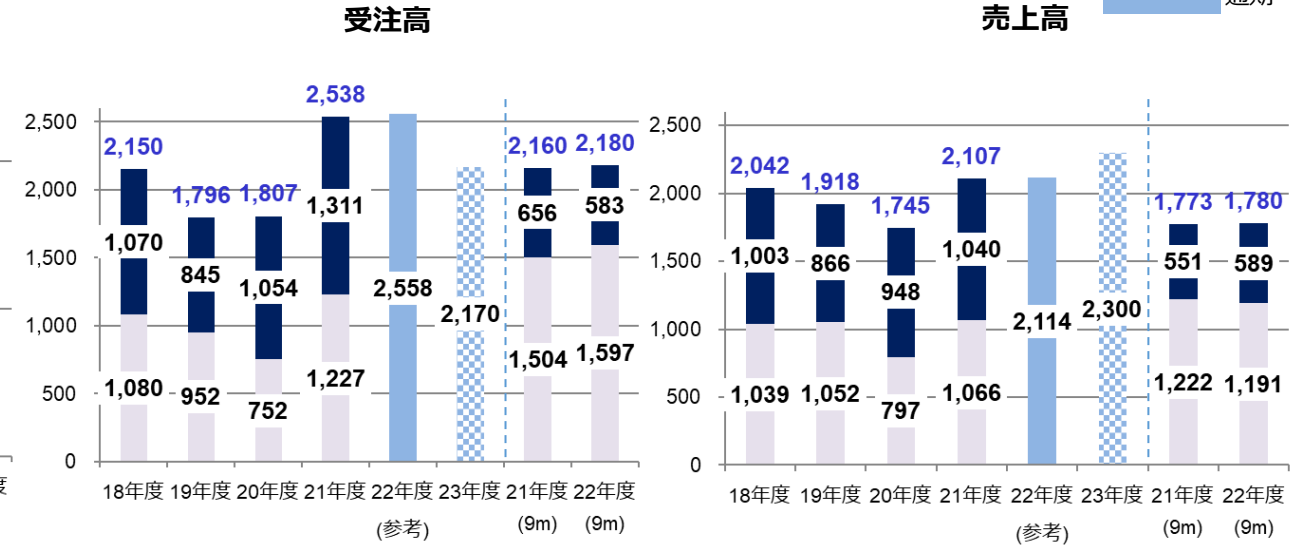
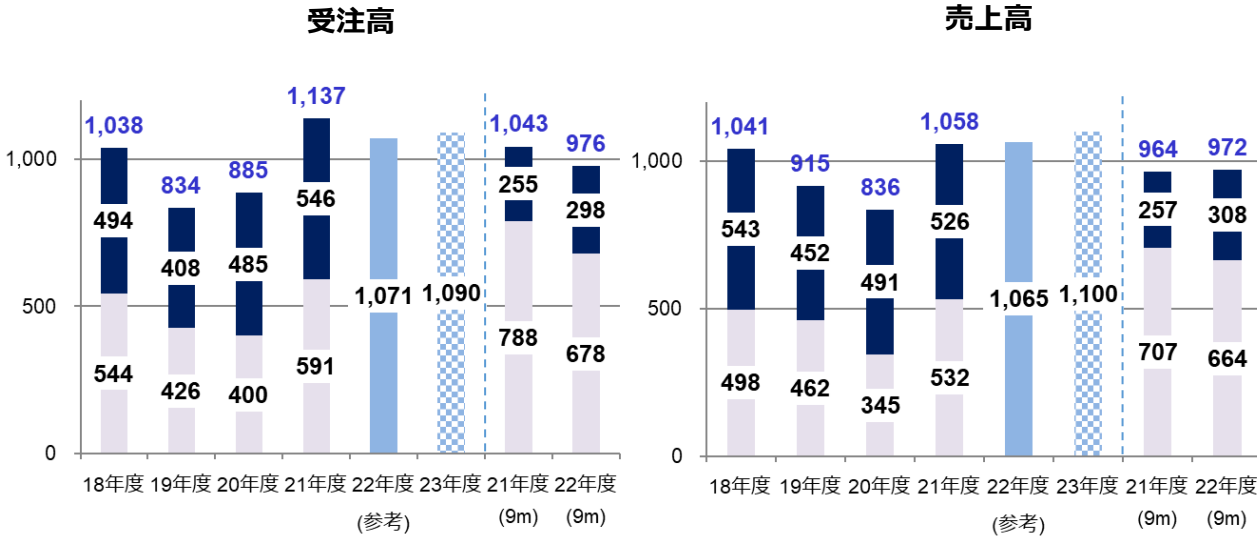
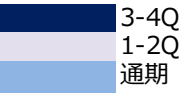
セグメント内訳（プラスチック加工機械・油圧ショベル）

半導体関連事業売上

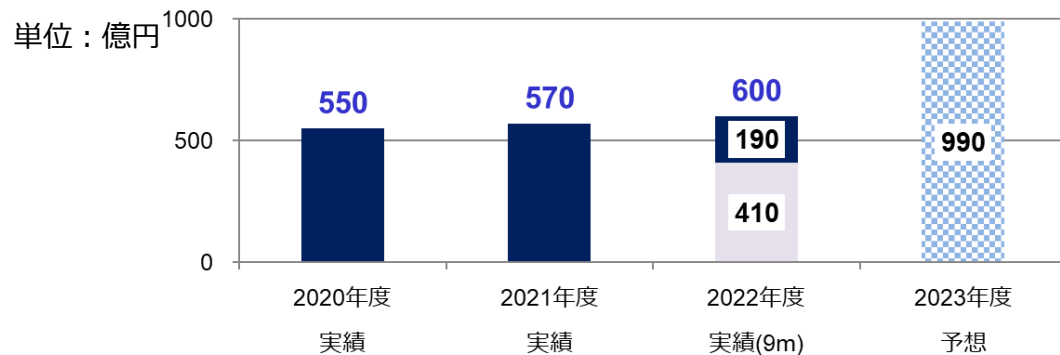
プラスチック加工機械

油圧ショベル

単位：億円



半導体関連事業 売上額合計（概数）



当社が保有する半導体製造向製品とキーテクノロジー

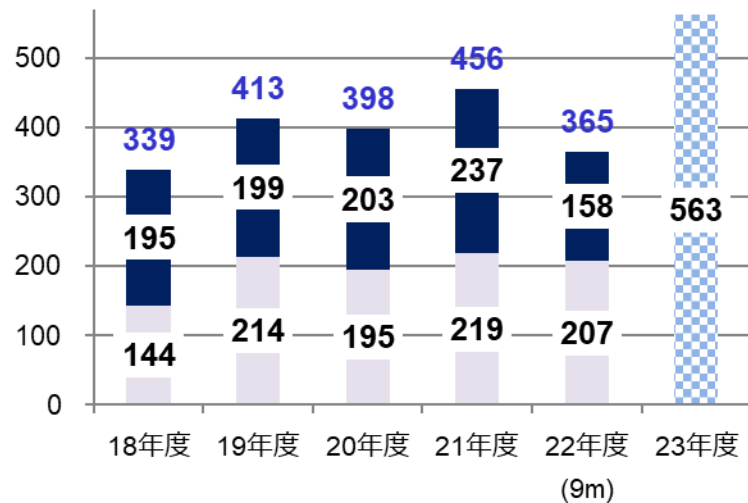
製品	所属セグメント	キーテクノロジーとの関係性 (◎:大 ○:中)		
		ビーム制御	極低温	真空
レーザーアニール装置	メカトロニクス	◎		
4KGM冷凍機/クライオポンプ	インダストリアル マシナリー		◎	◎
真空ロボット				◎
イオン注入装置		◎		○
MCZ用超電導マグネット			◎	○
イオン照射事業		◎		○

参考

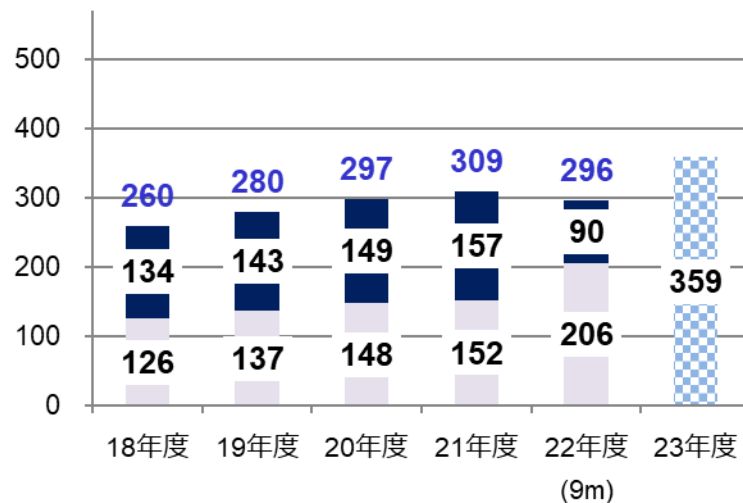
設備投資・減価償却費・研究開発費・人員・為替感応度

設備投資*

*実績はキャッシュアウトベース、
予想は決定ベース

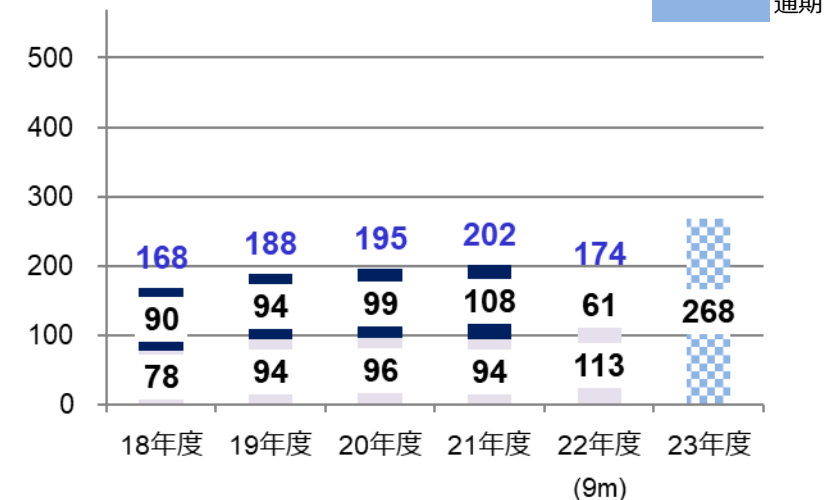


減価償却費



研究開発費*

*実績はPLベース、
予想は決定ベース



単位：億円

3-4Q

1-2Q

通期

人員（各年度終了時点）

単位：人	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
全社計	23,635	24,050	24,584	25,211

為替感応度（2023年度予想）

単位：億円	ドル	ユーロ	合計
1円の変動による営業利益への影響額*	6.1	2.5	8.7

*2023年度想定レートは¥125（ドル）、¥135（ユーロ）



地域別売上高

<為替レート(ドル)¥133> 単位：億円	2022年度 実績*1 (2022.4-2022.12)							
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く中国)	中国	その他	海外 計	日本	総売上高
メカトロニクス	433	435	179	177	135	1,360	454	1,814
(うち プラスチック加工機械)	127	280	127	270	51	855	117	972
インダストリアル マシナリー	255	400	322	534	57	1,568	681	2,249
(うち 油圧ショベル)	533	139	304	134	127	1,237	543	1,780
ロジスティクス&コンストラクション	1,164	157	343	136	143	1,943	1,060	3,003
エネルギー&ライフライン	104	193	198	11	168	675	759	1,433
その他	-	-	-	0	-	0	41	41
合計 / 売上高比率(%)	1,956 23	1,185 14	1,043 12	859 10	504 6	5,546 65	2,995 35	8,541
<為替レート(ドル)¥110> 単位：億円	2021年度 実績*1 (2021.4-2021.12)							
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く中国)	中国	その他	海外 計	日本	総売上高
メカトロニクス	276	350	142	156	97	1,021	424	1,445
(うち プラスチック加工機械)	87	266	118	319	49	839	125	964
インダストリアル マシナリー	188	367	254	507	53	1,369	544	1,913
(うち 油圧ショベル)	416	123	242	318	111	1,211	561	1,773
ロジスティクス&コンストラクション	960	132	277	320	118	1,806	1,039	2,845
エネルギー&ライフライン	61	197	146	9	149	563	988	1,550
その他	-	-	-	0	-	0	45	45
合計 / 売上高比率(%)	1,485 19	1,046 13	819 10	992 13	417 5	4,758 61	3,040 39	7,798



将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。